

B.C. Wide Roof Dome 300

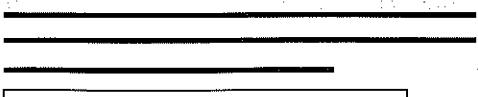
この度はB.C.ワイドルーフトーム300をお買い上げいただき誠に有難うございました。
 テント設営の際は水はけが良く、できるだけ平らな場所を選んでください。
 また、石や木の枝等、テントを傷つけるおそれのあるものは、あらかじめ取り除き、整地してから設営してください。

設営手順

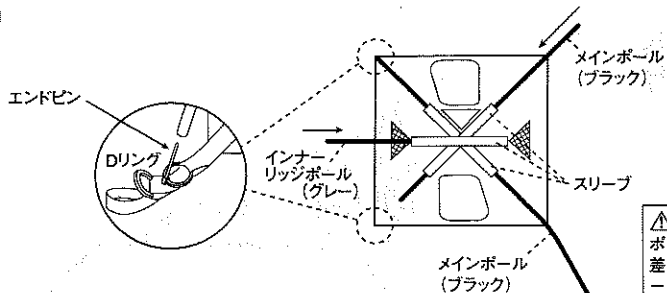
1 セット内容の確認

お出掛けになる前に一度、パーツ等の不足がないかご確認ください。

- 本体 1張
- フライシート 1張
- メインポール (FRP、ブラック) 2本
- インナーリッジポール (FRP、グレー) 1本
- フライリッジポール (ST、ブラック) 1本
- 自在ロープ (2.5m) 4本
- プラスチックペグ 4本
- STピンペグ 8本
- ハンマー 1ヶ



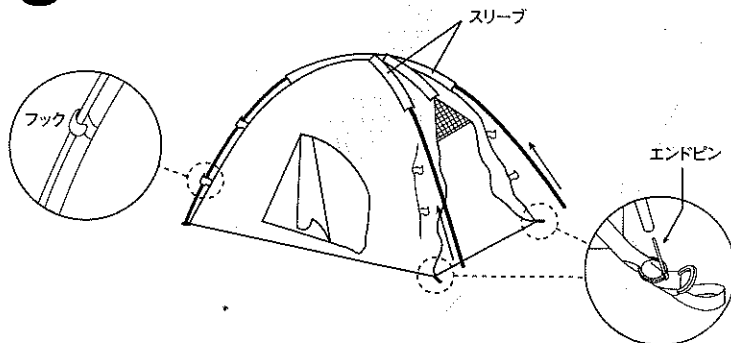
2 本体にメインポール、インナーリッジポールをセットする



- ①本体を広げ、メインポール (ブラック)2本をのぼし、図のようにスリーブに通してください。
- ②インナーリッジポール(グレー)を赤の目印があるスリーブに通してください。
- ③ポールエンドをエンドピンにセットしてください。

△注意
 ポールを伸ばす際には、各節を完全に差し込んで下さい。不十分な場合、ポールが折れる可能性があります。

3 本体を立ち上げる

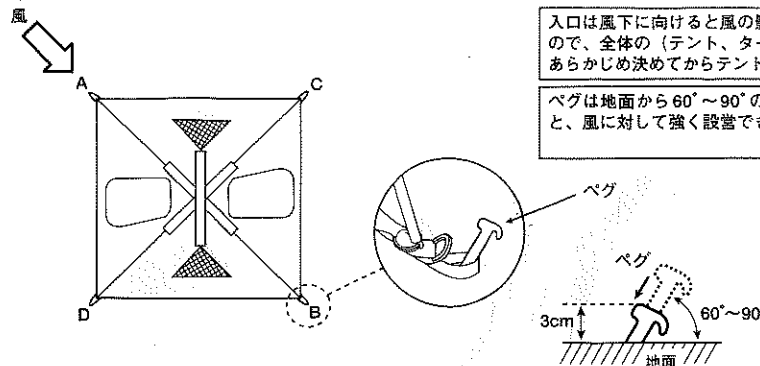


- ①あらかじめ出入り口のファスナーを必ず開けてください。
- ②2本のポールを矢印の方向へ押しながら、本体を立ち上げてください。

この時メインポールのスリーブ部分を手で手前に引っ張りながら、ポールを押し込んでください。無理に押し込むと本体が破れたり、ポールが折れるおそれがあります。手前エンドピンにポールをセットしてください。

- ③本体についているフックを各ポールに掛けて、固定してください。

4 設営位置を決めテントを固定する

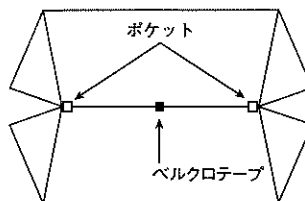


①図のように四隅のループを風上より順に対角線にペグを打ち、本体を固定してください。(順ABCD)

入口は風下に向けると風の影響を受けにくくなるので、全体の(テント、タープ等)レイアウトをあらかじめ決めてからテントを固定してください。

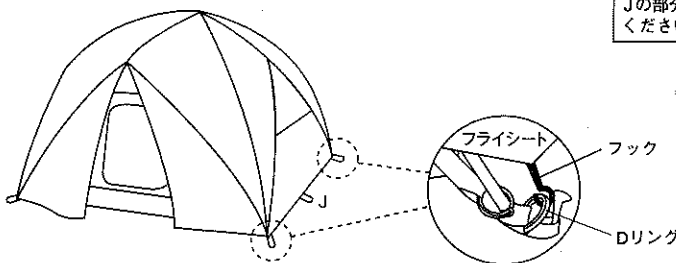
ペグは地面から60°~90°の角度で打ち込みますと、風に対して強く設営できます。

5 フライシートにリッジポールをセットする



フライリッジポールを組み立て、図のようにフライシート裏面の2か所のポケットにセットして、中央のベルクロテープで固定します。

6 フライシートを本体にセットする

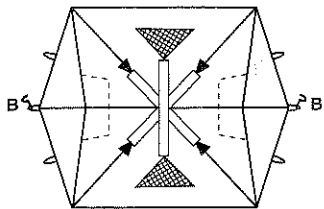


- ①フライシートを図のように本体にかぶせ、四隅のフックを本体のDリング(上面)にひっかけて固定します。フライシートの内側のベルクロテープをメインポールにとめて固定してください。
- ②フライシートの裾J部分のループをペグ打ちします(反対側も同様)。

Jの部分は出来るだけ本体と離してペグ打ちしてください。

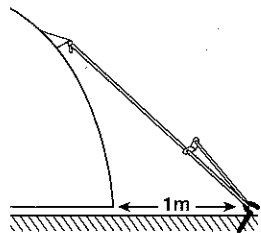
7 前室の活用

- ①前室を張り出す際はBの部分の片側のループにベグ打ちしてください。
それからもう片方のループを掛けてください。



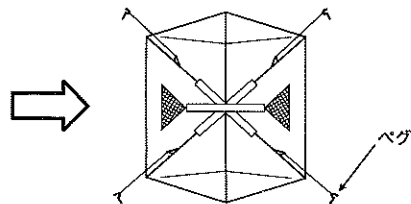
8 ストームガードシステムの活用

大きなサイズのテントはその構造上、風の抵抗を受けやすくなっています。「ストームガードシステム」を必ずご活用ください。



取り付け方

まず自在ロープの端をストームガードのループに固定します。そして打ったベグにロープをかけて自在をしめあげます。



- ①上・左図の要領にて4か所にロープをセットし、本体から約1m程離れた位置にベグ打ちして固定します。
- ②自在をしめあげて、ポールが前後左右に大きく動かなくなるよう調節してください。

⚠ 取扱上の注意

●テント内での火気の使用は危険ですのでお避けください。また炎から離れたところに設営してください。●テント内と外の気温差が高い時、テント内に水湿が生じることがありますが(結露)これは水漏れではありません。窓をあけるなど換気を行なうことで軽減できます。●台風・暴風雨の際は危険ですのでテントの使用はお避けください。

⚠ 収納・保管の注意

●ご使用後は汚れをよく落とし、十分乾かしてから収納・保管してください。濡れたままの状態での収納すると色うつりする場合があります。●生地が破れなどは市販のリペアーキットで補修が可能ですが、パーツ交換や本格的な修理が必要な場合は、お買い求めの販売店にご相談ください。